

山麓探偵団通信

2月号

二十二年ぶりに全面結氷した山中湖をご覧になりましたか？ 水上にのられましたか？

観光客のいない時間帯に湖畔を歩くと、真つ白な湖上が幻想的で、つきさすような寒さに、新鮮な味わいを感じます。ものが凍ると、周囲の音までそこに吸収されるようで、とても静かです。そんな中、結氷にあわてた水鳥のしぐさがひょうきんで思わず笑ってしまいました。

さて、一月の探偵団は、二十一日の土曜日が、残念ながら雪のため中止になりました。十九日の木曜日は、伊藤団長をふくめ六名、表富士の森の中を歩きました。伊藤浩美さんの隠れ家に招かれたような、得がたい半日を体験しました。

森に包まれているときは当然のように感じていた満足感が、一旦下界においてみると、ああ、あの半日は、伊藤さんの大切な仕事場に足を踏み入れさせてもらったのだなあと、感動ひとしおです。

◆ 参加団員の感想

探偵団公認の晴れ男、竹張さんの感

想をご紹介します。感動のはじつこを、ぜひとも味わってください。

「真つ白な富士山」

山の天気は変わりやすい。一同、快晴の山中湖畔で待ち合わせした後、反対側の山麓へと足を踏み入れるべく車を進める。山中湖畔で快晴であつた天気は、山麓を半周したただで一変し、雪模様。

聞けば、駿河湾から立ち上る雲ががっちり富士山に受け止められ、駿河湾側の山麓には雪が降り積もることが多いらしい。「今日は雪か」快晴に映える富士の眺めを期待していた私は、少し恨めしげに車中から雪空を眺めていた。



しかし、この雪こそが思いがけない幸運を後で演出してくれることになる

うとは、全く予想だにしなかつた。

山麓にくらす動物以上に山麓のことを知り尽くしている！ 団長の伊藤さんのご案内で、水が塚駐車場を少し西に過ぎたあたりから山麓の森の中に入っていく。まず鹿の親子が我々を出迎えてくれた。きよとんとこちらを一瞥してから、綿帽子のような白い尻尾を弾ませて、雪の森の中に走り去る姿は、ある種神秘的な姿であつた。

鹿が走り去つた森から視線を進行方向の前方に移すと、そこには見事な霧水が、木々の枝の先々まで繊細に彩つていた。先ほど降つた雪の恩恵か？ 山に入ることが多い団長の伊藤さんでさえ、滅多にみるものが出来ないという見事な霧水の光景に、一同ただただ見とれるばかりであつた。

嬉しいことに時間を追うごとに天気は回復していき、木漏れ日がきらきらと木々から舞い落ちる雪に、おだやかな光を与えていた。雪におおわれた森では、自分がどこを歩いているのか全く見当も付かなかつたが、ある曲がり角にきたとき「真つ白な大きな稜線」が目に見え込んできた。「あれはもしかして？ やはり？」そこには大きな富士山が有無を言わせぬ存在感で、鎮座していた。真つ白い森の向こうには、完璧なまでの青い空！ その青い空に映える真つ白な富士山！もうなにもいうことはない。富士山万

歳！ である。

この光景を眺めながら、温かい味噌汁を頂く幸せ！

感謝感謝の冬の日。

帰路山中湖の温泉露天風呂から富士の夕景を見上げて、もう一度つぶやく「富士山万歳！」

ありがとうございました！！(T・S)

◆ 二月の探偵団活動案内

テーマ「雪上青空レストラン！」

今年も、ペンション・モンテラックとまりものオーナー・シェフである、鈴木千春さんと三好幸一さんによる、雪上レストランが開店されます。みなさまどうか、一年に一回の食卓に、乞ひ期待！

・日時：十六日(木)、十八日(土)

・集合：旭日丘ゼブンイレブン隣の

・持物：双眼鏡、防寒着、長靴、

・参加費：二二〇〇円

・申込締切：それぞれ二日前までに、「あみん」にお願いします。

・昼食は無用。

・参加費：二二〇〇円

・申込締切：それぞれ二日前までに、「あみん」にお願いします。

・参加費：二二〇〇円

発行：山麓探偵団事務局

電話：〇五五五・六五・七〇三三

編集人：樋口裕峯